

## 令和6年度 第2回土佐和紙総合戦略推進会議 議事要旨

- 1 開催日時 令和7年3月25日(火) 10:00~12:00  
(場所: 高知県立紙産業技術センター2階研修室)
- 2 出席者 出席者名簿のとおり
- 3 議題 ①令和6年度の活動振り返り(総括)  
②令和7年度のPDCAシートについて
- 4 その他情報共有について  
令和7年度の活動についての提案

### 5 議事要旨

#### 議題①令和6年度の活動振り返り(総括)

○令和6年度の活動について報告(事務局から)

それを受けて、各委員からの意見は以下のとおり

田中副委員長(高知大学)

- ・2月のプロジェクトチーム会のお話させていただいた文化庁の補助金の話について、その会議の後に茨城県大子町へ視察してきたので色々とお話を聞いてきたが、楮の蒸し剥ぎやへぐりといった加工作業について、7割の補助が出ており、人も雇ってやっているため、補助金無しだと運営が難しいのではないかという印象だった。例えば、現地では大体10人前後の人が来てくれて、楮の蒸し剥ぎを1日7釜やっているが、1釜につき1,000円払っており、そのうち7割の補助が出るため、畑の持ち主は実質的には300円負担していることになるので、補助がないと難しいと思う。

白皮も同じように、7割の補助があり、15キロ分の黒皮を白皮に仕上げると、1貫になるが、それが約4,000円ほどである。文化財の修復用じゃないと補助が出ないのかという問題に対しては、茨城県大子町は特に要件は厳しくなかった。

- ・また、東京にあるアンテナショップのまるごと高知にも話を聞いてきたが、和紙のコーナーがさらに縮小しており、不織布とトイレトペーパーはよく売れるため置いてあるが、和紙はゼロに近いほど置いていなかった。担当者と話したところ、和紙のサンプルやQRコードを置くことはできるかもしれないとご提案いただくことができた。

今後、どういう形で進めるかわからないが、大学の学生達と土佐和紙の様々なサンプルを試作することなどから取り組んでいこうと思う。

岡崎委員長(工業振興課)

- ・先ほどの田中先生のお話にもあったように、アンテナショップをどういう風に活用していくかということについては、関西のアンテナショップでも共通的な話になってくると思うので、来年度に向けてどんなことができるか考えていきたい。

合田委員（土佐市産業振興課）

- ・保存活動については、県の歴史文化財課が所管となって行っているが、文化庁の補助金など、配布資料の中の取り組み事項については、工業振興課の分しか載っていない。所管をまたいだ形で県が取り組んでいる内容を紹介できるような中身の方が、このような会議の場で関係者に共有できるため、歴史文化財課も資料等で見える化した方が良い取り組みができるのではないか。個人的な意見だが、歴史文化財課の取り組みの紹介もしておかないともったいないと感じた。

中内委員（歴史文化財課）

- ・我々の課が取り扱っている補助金のエンドユーザーの皆さんが、ある意味固定化されていることが一番の課題であると認識している。一つの原因として、保存事業自体の仕組みであるとか、どういう使い方ができるのかということがわかりづらいということに尽きているのかなと感じているため、他の保存事業についても整理する必要があると考える。楮の生産者が見てわかるように、交付要綱を配布して説明するだけでなく、後で見てもわかるように、（補助対象事業や）必要な申請手続き等の全体がわかるようにしなければならないと感じた。

岡崎委員長（工業振興課）

- ・土佐和紙に絡む活動が文化の方でもあるということなので、総合戦略の中で見えてこないというのはもったいない話ではないかというご提案だったと思う。  
来年度、どういう形で見える化をしていくかということについて検討していきたいと思う。  
その他、補足説明などはあるか。

笹岡委員（高知県製紙工業会）

- ・土佐和紙総合戦略の目標が令和9年度に6億1千万円。この目標値は、相当厳しい状況にあることは間違いない。今まで基本方針ごとに力を入れて取り組んでいることはわかるが、実際、目標との乖離が非常にあるのではないかと思う。第2期戦略があと3年という期間の中で、目標をどう捉えていくのかについて、考えていく必要があると思う。  
例えば、企業であれば目標を達成できない場合は、目標を変更するといったこともあるが、土佐和紙総合戦略の目標値を変更することについては、検討の余地はあるのか聞きたい。

事務局（工業振興課）

- ・仰るとおり、売上額がどんどん下がっている。その要因として、売上額のうち機械漉き事業者が大半を占めている中で、機械漉き事業者のうち数件の事業者が廃業されていることもあり、全体としての売上額が下がっているという状況である。付加価値づくりとして少

しずつ和紙の価値を上げていながら、事業者の収入を上げていこうとしているが、効果としては数字としてすぐに反映されるのは現状難しいところである。

そのため、目標値をもう一度見直すのも一つの手段であるし、目標からあまりにも乖離してしまうと目標に対してどうしていくかということが意識的に見えなくなってしまうこともあると思うので、目標設定についても再度検討していきたい。

また、新年度に入ってから、事業者へ生産量調査等で聞き取りをさせていただく予定のため、そういったところで事業者の意見も参考にさせていただきながら、目標もその都度修正し、皆様に目標を共有できるような形でまた考えていきたい。

#### 岡崎委員長（工業振興課）

- ・ 笹岡委員の仰るとおり、企業の経営計画であればかなり現実的な目標値を設定することになっていると思う。もちろん、あまりにも乖離してしまうような目標値というのはよろしくないと思うが、少し頑張れば届くような目標というよりは、かなり頑張れば達成できるような、チャレンジングな目標ではありたいと思っている。

このなかで、売上が落ちている要因としては、コロナ禍でイベント等がなくなる中で和紙の需要が減少していくというのは一要因としてあったと考えられるため、令和9年度に向けて、目標値の見直しは考えていく余地がある。

#### 河野委員（紙産業技術センター）

- ・ 県指定文化財の新たな技術保持事業者数のところに関して、歴史文化財課で段取りをしていただき、3月に紙産業技術センターで勉強会を開催させていただいた。勉強会では、土佐和紙保存会のメンバー6名に集まっていただき、紙産業技術センターの職員が担当となり、県指定無形文化財の土佐和紙について、改めて紹介させていただいた。

すると、清帳紙や典具帖紙の紙の作り方については、なかなか本質的なところは初めて見るという方や、新たな気づきを得られたという方もいたため、紙産業技術センターを活用しながら、引き続き土佐和紙保存会のメンバーを対象に、勉強会を開いていただこうかなと考えている。

このように情報共有していく中で、清帳紙や典具帖紙といった土佐和紙の技術の認知度を上げるということを進めていきたい。

#### 議題②令和7年度のPDCAシートについて

○令和7年度のPDCAシートについて説明（事務局から）

それを受けて、各委員からの意見は以下のとおり

#### 田中副委員長（高知大学）

- ・ 日曜市の出店場所について、場所が暑い上に風も吹き込みやすい場所なので、和紙の商品

が風で飛んでいきそうだった。もしも可能であれば、出店場所の変更についても検討していただきたい。

事務局（工業振興課）

- ・もともと、高知市との協議のうえで高知県の出店場所が決められているため、場所の変更は難しい。テントを貸し出すなど暑さ対策は行っているが、今後も出店者の意見をいただきながら、さらに改善を図っていきたい。
- また、出店者からいただいた意見の中に、クルーズ船の寄港日に合わせて出店したいという意見が多かったため、寄港日のスケジュールを事業者にもお知らせする予定。出店していくなかで、他に意見や要望などがあれば、その都度対応を検討していきたい。

岡崎委員長（工業振興課）

- ・それでは、令和7年度の計画も含めて、土佐和紙総合戦略の令和7年度改訂版について、皆様にご承認いただけるか図らせていただきたいと思います。事務局からご説明いただいた土佐和紙総合戦略の令和7年度改訂版について、このような内容で改訂させていただくということで、よろしいでしょうか。

全委員、異議無し。

岡崎委員長（工業振興課）

- ・ありがとうございました。それでは、計画の方はこれで改訂させていただきます。
- 年度が明けましたら、プロジェクトチーム会を開催させていただき、そこで議論しながら、推進会議を設けて進めいきたいと思う。
- 次に、4月以降どんな動きをしていくかということについて、事務局からのご提案をさせていただきますと思う。
- それでは次の事項について、事務局より説明をお願いします。

#### その他情報共有について

##### ○令和7年度の活動についての提案

##### 土佐楮マークの運用再検討について

事務局（工業振興課）

- ・土佐和紙産地マークは、現在使われていないのか。

大原委員（高知県手すき和紙協同組合）

- ・運用されていないというよりは、土佐和紙産地マークを使う方がいない（実質は運用されていないのに近い状態）。

事務局（工業振興課）

- ・KOZO マークについては、現在商標登録されているが、いの町に聞いたところ、これは現在マークとしてはあるが、実際は使われていないという状況なのか。

尾崎課長（いの町産業経済課）

- ・昨年度、商標登録の期限が切れるところだったので、新たに登録の更新をした。KOZO マークが押せるスタンプ台も作っているので、ぜひ利用していただけたらと思う。

事務局（工業振興課）

- ・この KOZO マークは、使用の申請をすれば使えるようになるのか。

尾崎課長（いの町産業経済課）

- ・マークの取り扱いについては、これから議論していきたい。

#### 新しいマークの検討について

岡崎委員長（工業振興課）

- ・こういった土佐楮マークの運用再検討については、プロジェクトチーム会の中で、原料づくりの項目の中から出てきた話である。これは、原料（土佐楮）の作り手の方も、土佐楮を作った方がメリットがあるというようなインセンティブを作っていくという主旨での提案である。

先ほど事務局から説明のあった新しいマークの提案については、論点がいくつもある。1つは、土佐楮という原料を認定する。もう1つは、高知県産の原料で作った紙を認定するというように、論点をどこに捉えていくのかによって議論が分かれてくる。紙を認定するとなれば、先ほどたたき台として高知県産の原料（楮、三桎、雁皮）を50%以上という話があったが、どれくらいの分量で認定していくのか議論していく必要がある。仕組みとしては、管理していくという面と、それを収益に繋げていくという面があり、手すき組合が絡んでいく形がメリットが大きいのではないかと思う。

河野委員（紙産業技術センター）

- ・マークを使うことによって、誰がこのマークを使うと嬉しいのかという、使い手側のメリットを明確にする必要がある。マークを使うことを努力義務にすると継続性がなくなるので、使う側・管理する側にとっても、嬉しいと感じるポイントはどこなのかをはっきりさせる必要がある。例えば、室戸海洋深層水のブランドマークでいうと、深層水に対してプライオリティを付ける。よそのものとははっきりと差別化を図ることが嬉しさだった。今回、このマークを付けることの嬉しさのポイントはどこか、という点を絞り込む必要がある。

一般の方に、「このマークを使うとこんな嬉しさがある」ということがわかるよう、明確にしたい。

岡崎委員長（工業振興課）

- ・単純に商品としてだけでなく、より広いPRの仕方を行っていく必要がある。本日、オブザーバーとして和紙事業者の方たちにも来ていただいているが、手すき和紙協同組合や製紙工業会のご意見だけでなく、その団体に所属されている和紙事業者の皆様のご意見は、確実に盛り込みながら進めていくことは必須だと考えている。今後、議論を進めていく中で、和紙事業者に様々なご意見を頂戴することになると思うので、引き続きご協力をお願いいたします。

笹岡委員（高知県製紙工業会）

- ・個人的な意見だが、マークは難しいのではないかと考える。例えば、「このマークが使われている商品は安心が保証されている」といったマークに関して、直接ではないが、製品開発でも携わってきたことがあっての意見だが、マーク付与の最初の趣旨としては、マークを付けていないものとの区別や、マークを付けることによって、お客さんに認知してもらえるということで、最初は積極的に取り組むが、ほとんどが最初の勢いだけで、長続きしないケースもある。その1つの要因として、お客さんへの認知度向上がなかなか難しいことが挙げられる。気がついたときには、マークを付けなくなっていることが多い。最初は取り組む企業も多数あったが、しだいに作り手側の認知が外れていき、最終的にはマークを付けなくなってしまったというケースがあるため、そういうところをどうしていくか議論する必要があり、そこが最も重要なポイントではないかと思う。

田中副委員長（高知大学）

- ・楮使用量の割合に幅を持たせても良いのではないかと感じた。例えば、楮50%、100%など、割合別にマークを作っても良いかと思った。これによって、ブランディングにもなると思うが、それだけでなく、紙の質の保証にもなるといったところも大事だと考える。マークを出すときにどこまでチェックするかについては不明だが、高知県産の楮であるかどうかということを確認したうえでマークの付与をしていることがわかるような運営の仕方もあると思う。もちろん様々な紙があっても良いと思うが、このマークを付けている紙は、地元の原料を使っていることを示す必要がある。他県でもそうだが、あまりにも和紙の種類が広くなりすぎてしまっており、その産地の名前が入っている和紙でも、違う産地の原料を使っている事例もあるため、土佐和紙がどのような形で生き残っていくかを探っていかなければならないと感じる。

河野委員（紙産業技術センター）

- ・以前、田中委員からも楮の鑑定の話があったため、紙産業技術センターの職員にも聞いてみたところ、どこの産地の原料を使用しているか見極めるのは、現実的に困難であるとのこと。単純に産地の異なるものを比較してもわかりづらいし、さらに難しいのが、楮の交雑が進んでしまっているということである。例えば、分類学上の〇〇目の〇〇種〇〇科という末端のところまで交雑してしまい、どこの産地の原料か判別することが困難であると職員から話を聞いた。そのため、楮の鑑定については厳しい面もあると感じる。

#### 事務局（工業振興課）

- ・マークについては、たたき台として提案したが、確かにマークは難しい面もあると感じる。議論の結果、マークを辞めることになっても良いと思うが、これまで議論されてきたマークの中で出て来なかった観点として、具体的な意義やチャリティー型にするなど、そういう視点はなかったのではないかと思うので、このような形でたたき台として提案した。この話については、来年度また議論していきたい。

#### 岡崎委員長（工業振興課）

- ・その他、情報共有しておきたいことなどはあるか。

#### 田村委員（高知県産業振興センター）

- ・産業振興センターで実施するイベントについてご紹介する。今年度、紙製品が出展できるブースとして、ギフトショーやインテリアライフスタイルに出展することになっており、前半の分は既に募集が終わっているが、9月に行われる大阪のギフトショーの募集が4月に開始する予定。出展をご検討されている方がいたら、産業振興センターまでお問い合わせいただけたらと思う。

また、海外展開の支援として令和6年度にフランスのパリでショールームを借りて土佐和紙を展示したが、非常に土佐和紙に関心が高いことがわかった。高所得者層に和紙に関心の高い方が多いこともあり、かなり興味・関心を引くことができた。その募集についても、新年度の割と早い段階で実施しようと考えている。実際の展示期間が11月～1月になるが、事前の準備等もあるため、日程はまだ決まっていないが、産業振興センターのホームページなど、何らかの形でご案内させていただきたいと思う。

#### 田中副委員長（高知大学）

- ・今ご紹介いただいた内容は和紙事業者の方に対して、どのように情報提供していくのか。

#### 田村委員（高知県産業振興センター）

- ・どう伝えるかが私たちも課題であると感じている。基本的には産業振興センターのホームページで公開し、お付き合いのある方には直接連絡がいくが、普段から産業振興センター

と特にお付き合いがなければ、組合を通じて情報提供することになると思う。

今回は、中小企業団体中央会にチラシを投げ込もうと考えているので、組合から情報が入ると思う。

田中副委員長（高知大学）

- ・ここでの取り組みもそうだが、どのように発信して情報を共有していくのかが大きな課題であるため、ご検討いただけたらと思う。

以上をもって、令和6年度第2回土佐和紙総合戦略推進会議を閉会した。